

支部の活動実績

北海道支部



日本応用地質学会

支部の実績 I

北海道支部のあゆみ

- 昭和30年 4月 日本地質学会の夜間小集会で災害地質に関する
談話会「災害地質研究連絡紙」刊行
- 昭和33年 2月 災害地質研究会を応用地質研究連絡会に改称し、
連絡紙を「応用地質研究連絡紙」と改題
- 昭和33年 9月 日本地質学会の夜間小集会として、
北大理学部地鋤教室で応用地質研究会を開催
〔応用地質〕第1巻第1号発行
- 昭和35年 4月 日本応用地質学会に改称
- 昭和38年 3月
- 昭和41年 1月 **北海道支部の設立が承認される**
- 昭和54年 5月 **支部研究発表会予稿集第1号発行**
- 昭和54年 7月 **支部ニュース第1号発行**
- 昭和55年 3月 「地質調査法の問題点その1 ポーリング調査の
問題点」発行
- 昭和55年 3月 第1回特別講演開催される。北大名誉教授
湊 正雄氏「新潟の地盤沈下と復旧対策」
- 昭和56年 3月 「地質調査法の問題点その2 ポーリング孔内
検層調査の問題点」発行
- 昭和60年 4月 北海道支部創立20周年記念式典、特別講演会、
祝賀会開催
- 昭和62年 2月 第1回地質講習会（テーマ「土木地質的な岩石の
見方」）が開催される
- 平成元年 4月 土木地質データ集・北海道編（第1集）刊行
- 平成 2年 6月 日本応用地質学会全国研究発表会を北海道支部
にて開催
- 平成 6年 8月 支部ニュースを第29号より「EPOCH」に改称
- 平成 7年 9月 北海道支部創立30周年記念特別講演・祝賀会開催
「地質調査法の問題点」改訂新版第1巻
「ルジオンテスト」発行
- 平成 9年10月 日本応用地質学会平成9年度研究発表会全国大会
を北海道支部にて開催
「地質調査法の問題点」改訂新版第2巻
「ポーリングコアの観察～岩盤編～」発行
- 平成15年10月 日本応用地質学会平成15年度研究発表会全国大会
を北海道支部にて開催
- 平成17年10月 北海道支部創立40周年記念特別講演会・祝賀会開催
- 平成20年 9月 岩手・宮城内陸地震調査団に北海道支部から1名
派遣

支部の実績 II

北海道支部の特徴

・地形・地質の特徴

北海道の面積は83,452km²で全国土面積の22%を占めています。北海道の背骨と言われる日高山脈は南北約150kmにもおよび、日本最長の原始の山域です。

北海道は有数の火山地帯であり、火山からの噴出物が厚く堆積しています。また、中央部の“神居古潭帯”といわれる変成岩分布域内には蛇紋岩が分布しており、トンネル掘削などの土木工事においては十分な注意と慎重な対処を必要とする岩石とされています。

北海道には約2,000km²におよぶ泥炭（湿性植物の遺体が低温多湿条件下で分解不十分のまま堆積したもの）地が分布しており、北海道の面積の約2.4%、平地面積の約6%に相当しています。泥炭層はその下位に軟弱な粘土層が堆積していることが多く、地盤沈下など土木工事においても十分な注意が必要です。

・支部活動の実績

・研究発表会、特別講演会、特別報告会、
・現地見学会、技術講習会、出版物 などの活動
を行っています。

・大学・研究機関・関連団体など

・大学

会員が所属する大学は、北海道大学、北海道教育大学、室蘭工業大学、北見工業大学、北海道工業大学と工学系に所属する会員が圧倒的です。

・研究機関

会員が所属する研究機関は(独)土木研究所寒地土木研究所、北海道立地質研究所、(独)日本原子力研究開発機構、(財)北海道科学技術振興センターがあります。

・北海道応用地質研究会

日本応用地質学会北海道支部は、北海道応用地質研究会と合同で活動しています。

支部の実績 III

会員の地域分布

北海道支部会員数

・会員数：163名

うち、国際会員4名、学生会員4名

・会員の地域分布

会員163名のうち、勤務先が札幌市の会員は152名と90%を越えています。したがって、研究発表会や講演会、講習会などは100%札幌市で開催されます。

